



# 金から学ぶ

学校長 小邑 政明

私の実家は物作りと  
商売をやっていた。父  
が作った商品が売れる

とお金が入って夕食が豪華になった。逆に、物が売れない月にご飯にめざしや自家栽培の野菜を父母と兄弟3人で分けて食べるという生活であった。小学生のころの私の仕事のひとつに借金の回収があった。当時は、現金と引き替えに物を売るより、そのつど商品を渡し代金は1ヶ月まとめて回収するという販売方法が一般的だった。小学生が大人と話をするのだからプレッシャーは相当なものだった。領収書に不備があって相手から叱責を受けて泣きながら帰ってきたことが今でも脳裏に残っている。こんな経験もあって、私のお金を大切に思う気持ちは人一倍強いのではないかと思っている。

最近、エコノミストの中原圭介さんの著書『ここ豊かに生きるお金の入門塾』という本を読んだ。その中で、日頃私が考えていることと一致していることがいくつかあったので、紹介をしたい。

その1：「自分を磨くためにお金を使う」。例えば、「本を読む」というのは、もっとも手軽で効果的な自己投資である。歴史学や心理学、社会学といった分野は、実はとても応用範囲の広い学問なので、スキルや能力を磨くのに役立つ。また、新聞を読んで世の中の流れをつかむことも手軽な自己投資の方法である。新聞は、インターネットと違って、「世の中に影響を与えるであろう」という

判断のもとに、記者によって選び出された情報である。大きな見出しと本文の出だしをざっと読むだけでも、世の中の動きや雰囲気をおおまかにつかむことができる。大事なことは、どの情報が重要なのかを見極める目を養うことである。新聞を読むことは、そのトレーニングとして一番簡単なものだと思う。さらに、本や新聞で読んだことを知識として記憶するだけでなく「自分の頭で考える」ことがスキルアップにつながると考えている。

その2：「次の時代を担う子どもたちに、お金についての正しい教育をすること」。今の子どもたちに「大きくなったら何になりたいか」という質問をすると「お金持ちになりたい」「有名になりたい」といった答えが返ってくる。それも、努力をしてそうなるつもりではなく、どうやら棚ぼたやラッキーで夢がかなうことをイメージしているようである。これはとても末期的な状態のように思えてならない。子どもに、我慢することやお金の大切さ、親がどれだけ汗を流し大変な思いをしてお金を得ているかを理解させることが重要だと考えている。できれば、子どもに親が働いている場面を実際に見せてあげることができれば良いのだが、それもなかなかできないので、家族の会話の中で仕事の話をしたり、学校教育の中でお金についての教育も取り入れていく必要があると考えている。

次回は「火から学ぶ」について書きます。